

雜 錄

合衆國の鉄鋼生産狀況 (能力に對する生産割合の激減) ("Steel" Feb. 8. 1932)

(1) 銑鐵:—1月には操業高爐數4基を加へたが、骸炭銑の産額は12月分より稍々減少した。こは12月に10基の高爐を失ひたると、作業時間を減じた高爐が夥多あつた結果である。然しながら其の減少率は合計に於ても亦日産平均に於ても僅に0.9%で過去9ヶ月間中何れの月の減少率よりも少である。

1月の生産高が12月分より少なかつたのは1921年以來初めてであつて、12月の980,377噸に對し971,437噸即ち8,940噸の減少を示した。此の數字は1921年8月(954,901噸)以來の最低數字で1931年1月の生産高は1,715,443噸であつた。

1月の日産平均は12月の31,625噸に對し31,336噸で僅に289噸の減少に過ぎず1921年8月(30,802噸)以來の最低數字である。1931年1月の日産平均は55,337噸であつた。能力に對する生産割合に就て見るに1月の作業率は12月の22.0%、11月の25.5%に對し21.8%に減じた。1月31日現在操業高爐數は合計61基で12月31日現在の57基に對し4基を増した。1月は客年3月以來操業高爐數を増した最初の月であつて3月末日現在の操業高爐數は116基であつた。

1月中に火入した高爐7基、吹下ろしたるもの3基で、之を内譯すればマーチャント高爐の内火入2基、吹下ろし1基差引1基の増加、又非マーチャント即ち製鋼所方面に於ては火入したるもの5基、吹下ろしたるもの2基、差引3基の増加であつた。最近年間の月別銑鐵生産高日産平均、能力に對する月別生産率並に1月末日現在州別操業高爐數を示せば次表の通りである。

合衆國銑鐵作業率變動一覽  
(能力に對する生産率)

月別	1932年	1931年	1930年	1929年
1月	21.8	38.4	65.0	79.0
2		42.5	72.1	82.2
3		45.4	74.5	85.5
4		46.5	75.4	87.4
5		44.7	74.2	89.8
6		37.9	69.3	88.5
7		32.7	60.3	87.2
8		28.7	57.8	86.4
9		27.0	53.8	83.3
10		26.3	49.6	82.6
11		25.5	44.1	75.8
12		22.0	38.1	65.5

備考 1932年及1931年生産率は1930年12月31日現在能力52,515,875噸を基とし1930年の生産率は亞米利加鐵鋼協會調査能力51,490,680噸を又1929年の生産率は同じく協會調査の51,069,895噸を基とせるもの。

合衆國銑鐵月別生産高

月別	1932年	1931年	1930年
1月	971,437	1,715,443	2,838,751
2		1,711,192	2,845,937
3		2,028,906	3,252,822
4		2,009,582	3,191,119
5		1,995,001	3,241,477
6		1,637,998	2,934,508
7		1,462,270	2,638,441
8		1,279,205	2,525,105
9		1,168,436	2,276,781
10		1,172,781	2,165,374
11		1,101,820	1,865,458
12		980,377	1,665,715
合計		18,263,011	31,441,488

合衆國銑鐵日産平均

	1932年	1931年	1930年	1929年
1月	31,336	55,337	91,573	110,742
2		61,114	101,640	114,942
3		65,448	104,930	119,662
4		66,986	106,371	122,106
5		64,355	104,564	125,753
6		54,599	97,817	123,837
7		47,170	85,110	122,016
8		41,264	81,455	120,845
9		38,947	75,893	116,548
10		37,831	69,851	115,747
11		36,727	62,182	106,081
12		31,625	53,732	91,513
平均		50,035	86,141	115,803

1932年1月州別操業高爐數並銑鐵生産高

州別	1932年1月 末日現在 操業高爐 數	1931年12 月末日現 在操業高 爐數	生産高合計(噸)	
			マーチ ヤント	非マーチ ヤント
オハヨ	15	11	10,198	217,742
ペンシルバニア	16	16	20,278*	210,426
アラバマ	6	6	28,877	61,247
イリノイス	6	6	52,475	68,425
紐育	6	6	53,263	26,734
コロラード	1	0		
インディアナ	5	5		
メーリランド	2	2	187	152,658
ヴァージニア	0	0		
ウィスコンシン	0	0		
ケンタッキー	0	0		
マサチューセツツ	0	0		
テネッシー	0	0		34,770
ウーダ	1	1		
ウェストヴァージニア	1	2		

ミシガン	2	2	15,603	7,304
ミネソタ	0	0		
ミズリー	0	0		
ニュージャージー	0	0		
鏡鐵及滿俺鐵 (全州)	..	..	+	11,250
合計	61	57	180,881	790,556

備考 \*印鏡鐵及滿俺鐵を含む  
+印ペンシルベニア州を含む

(2) 鋼:—1月の鋼塊生産高も12月の最少數字から若干立ち戻つた。1月の日産平均は12月の50,092噸に對し56,203噸、又月産額は12月の1,302,393噸に對し1,461,290噸を算した。能力に對する生産率に就て見るに1月は26.54%、12月は23.58%、1931年の平均は37.69%であつた(亞米利加鐵鋼協會調)今昨年から本年にかけて鋼塊月別生産高の變動を示せば次の通りである。

鋼塊生産高(1931年—1932年)單位英噸

斯業の95.21%の報告數字

1931年	平爐鋼	轉爐鋼	報告せる 會社の月 産合計	全會社の 月産合計 概數	作業 日數	全會社 の日産 概數	能力に 對する 生産率 %
1月	2,044,298	296,620	2,340,918	2,458,689	27	91,063	42.86
2	2,085,529	296,974	2,382,503	2,502,366	24	104,265	49.08
3	2,504,060	346,137	2,850,197	2,993,590	26	115,138	54.20
4	2,275,444	316,663	2,592,072	2,722,479	26	104,711	49.29
5	2,083,833	301,639	2,385,472	2,505,485	26	96,365	45.36
6	1,730,109	246,365	1,976,474	2,075,910	26	79,843	37.58
7	1,570,776	225,030	1,795,806	1,886,153	26	72,544	34.15
8	1,462,467	174,631	1,637,100	1,719,462	26	66,133	31.13
9	1,274,321	199,151	1,473,472	1,547,602	26	59,523	28.02
10	1,320,158	195,943	1,516,101	1,592,376	27	58,977	27.76
11	1,276,906	240,441	1,517,347	1,593,684	25	63,747	30.01
12	1,069,468	170,546	1,240,014	1,302,399	26	50,092	23.58
合計	20,697,582	3,009,894	23,707,476	24,900,195	311	80,065	37.69
1932年							
1月	1,230,661	160,633	1,391,294	1,461,290	26	56,203	26.54

備考 數字には坩堝鋼塊並電氣爐鋼塊を含まず  
生産率は1930年12月31日現在能力66,069,570噸を  
基礎とす(7.3.10日 m. m. 生)

インド製鐵業の現在及將來 (昭和7年2月15日  
目附在ボンベイ栗原領事報告)

インドの製鐵界は各國同様世界的工業不況の爲多大の打撃を被り、之が打開の途を發見せんことに腐心し居る模様なるが、先般 Mysore Engineers' Association に提出されたるインド製鐵業の現在及將來に對する評論は本邦當業者にも相當興味ある所と思せらる。其大要を抄譯すれば次の如し。

印度の製鐵業

(1) 貿易並製造工業界不振の影響を受けて世界の製鐵業者は米國を除き何れも多大の打撃を蒙り、爲に歐洲各國に於ては此影響を免れんが爲に組織の變更等を行ひ來

れり。

1929年には世界は鐵及鋼製産額に著しき増加を見たるが、特に銑鐵は世界大戰以來始めての激増を示せり。即ち1929年の銑鐵及鋼の總製産額は夫々9,880萬噸及1億1,904萬噸にして、1913年の7,772萬噸及7,483萬噸に比し其増加の著しきを見る。米國は最大製産國にして銑鐵4,477萬噸及鋼5,783萬噸を製産、之に對しインドは僅に135萬噸及57萬噸を産出したるに過ぎず。

(2) インドに於て始めて近代的設備に依り成功したるものはベンゴール・アイアン・カムパニーにして、之は1889年バラカル・アイアン・ワークス・カムパニーの事業を引受けたるものなり。當社工場は東インド鐵道のグルチ(アサンソール附近)に在り、年額40萬噸の銑鐵製産能力ある5基の銑鐵爐及6萬噸の製造能力ある枕材鐵造所を有す。

以上より後れて設立されたるも現在最も著名なるはタ、製鐵會社にして、ベンゴール・ナグプール鐵道沿線ビハール・オリッサ州のジャムシエドプールに存在し、其設備は最も近代的にして平爐及銑鐵爐其他最新式装置及各種附屬工場を有す。總製産額は關稅調査會の豫想に據れば1934年に鋼60萬噸及餘剩銑鐵製産額6萬噸に達する見込なり。

之に次いで重要なものに銑鐵のみを製産する、インディアン・アイアン・エンド・ステイール・カムパニーあり、銑鐵爐2基を有し、年50萬噸の製造能力を有す。

約3年前上記インド製鐵會社とベンゴール製鐵會社の事業は兩社の株交換に依つて合併せられたり。爾來インド製鐵會社のマネージング・エゼントたるバーン會社は、ベンゴール

製鐵會社のマネージング・エゼントたるマーティン會社に買収せられたり。尙タ、製鐵會社は此等兩者との間にインド内外に於ける銑鐵の販賣に關し或種の諒解を遂げたり。

(3) インド内に於ける銑鐵の販賣高は、1929年に至る過去4年間は約14萬噸に達し、1929年にはインド鐵道の銑鐵消費高7萬噸に及びたるも、翌1930年には著しく減少して其額2萬噸にも達せざりしなるべし、以後は更に減少したるものと察せらる。目下の綿業其他の不況に依り、インドの總消費額は9萬噸を超えざるべし。

對外的には日本の需要が將來増加する共、當分10萬噸以上には出でざるべし。米國は日本に次ぐ得意先にして約7萬噸のインド銑を輸入し來れる處、インド銑を排斥

せんが爲に、關稅の引上を以て常に脅威を加えつゝあるを以て、對米輸出増加を圖るは困難なるべく、其他の諸國に對する輸出可能性は更に少じと謂ふべし。斯くして現在の製産率を以てするも、約 35 萬噸に對する市場發見は益々困難となりつゝあり。

インドに於ける銑鐵製産額と鋼鐵製産能力との間の不均衡は銑鐵及パイプに對する地方市場を混亂せしめたり。現在の貿易及財界の狀況に於ては其の需要は不定にして、安値必しもインド製鐵類の需要増加を誘致せず。今日の需要に對しても激烈なる競争ありて、價格は次第に低落しつゝあり。インド内地市場の狀況斯の如く對外輸出亦脅威を受け居る今日、之が對策としては 2 つの方法あるのみ一は生産制限、他の一は内地需要を充たす爲に鋼を製造することなり。但し前者は鋼の製造開始に至る迄の一時的便法に止めざるべからず、一日たりとも必要以上に生産制限を續行することは當國の利益に非ざればなり。

(4) タ、製鐵會社の現在の設備を以てすれば、1934年には 60 萬噸の鋼を製造することを得。インドの鋼製品輸入額は 1929 年には 106 萬 7,056 噸、1 億 8,830 萬ルピーに達し、尙此外 1 億 7,930 萬ルピーの機械類の輸入を見たり。以上の數字は明にインドに製鋼事業擴張の餘地充分なるを示すものと謂ふべし。

唯本事業遂行上主要なる障害をなすものは、資金の缺乏と保護關稅繼續の不確實なることなり。インド政府は 1933—34 年度には恐らく調査を行ひ、保護關稅を當インドの利益の爲に繼續せしむべしと信ずるも、此は必しも其不安を一掃するものに非ず、又製鐵業者の要望する程度の保護を與へらるゝことを保證するものにも非ず。

(5) 元來鐵工業は關係する所世界的なるが、其狀態の變化極めて迅速なるを以て、長時日の調査を経て後始めて立法手段を講ずるが如き悠長なる方法は時宜に適したる救済を興ふること能はず。若しインドの製鋼業擴張が現在のインド製鐵業不振に對する唯一の救済方法たりとせば、インド政府は直に此目的達成の爲に手段を講ずべきなり。關稅調査會は前回報告中に於て、此提案は今後開始さるべき事業に對し妥當なるものとなせるが、手近に市場あり且幾多の天惠あるにも拘らず新規事業の開始を見ざりしは、絃上の不安と近年鋼商賣の不況に對し許與する所充分ならざるを示すものなり。

故に現在製鐵業の實際必要とする所のものは 15 年乃至 2) 年の長期保護にして、之を本工業と接觸を保つ永久委員會の支配下に置き、狀態の變化に伴ひ一定の範圍内に於て之に相當する様之に變更を加へ得る 權能を附與す

べきことなり。インド製鐵業の近き將來は必しも赫々たりとは言ひ得ざるも、若し海外市場に依頼する現在の狀態を棄て、内地市場の需要に應ずる爲に一步を進めば、極めて有望なること自然の利に顧みて瞭なる所なり。

各製造家間の協調と各方面に對する政府の度量にして且時宜に適したる保護とは、本工業を瓦解より免れしめ、却て鞏固にして利益ある基礎の上に本工業を建設することを得しむべし。(海外經濟事情第 5 年第 15 號)

### 国立東京商工獎勵館工業試験依頼手續概要

(註 此記事は同館の先棒の様であるが 近頃鐵鋼協會々員其他より鐵鋼並に諸材料の分析、試験等の依頼に應ずる處を教示してくれと云ふ照會頻々となり 其都度商工省工業試験所及此の獎勵館を回答して居りますが、幸ひ此記事は見當りましたので掲載しますから 御参考とせられたし。)

(1) 工業品の分析、試験檢定又は鑑定を依頼せんとする者は現品に添へ次記手数料を前納すべし。

#### 1、分析

イ、定性分析 每 1 件 1 成分、金 2 圓トシ更 = 1 成分ヲ増ス每 = 金 1 圓ヲ加フ 但シ稀有元素ノ定性分析ヲ含ム場合 = ハ其 1 成分每 = 金 1 圓ヲ増ス

ロ、定量分析 每 1 件 1 成分金 3 圓トシ 更 = 1 成分ヲ増ス每 = 金 2 圓ヲ加フ 但シ稀有元素ノ定量分析ヲ含ム場合 = ハ其ノ 1 成分每 = 金 2 圓ヲ増ス

ハ、鑛石中ノ金銀ノ定量分析 每 1 件金 8 圓トス

ニ、主要成分又ハ全成分ノ定性分析 每 1 件 金 5 圓以上 10 圓以下トス

ホ、主要成分又ハ全成分ノ定量分析 每 1 件 金 10 圓以上 20 圓以下トス

#### 2、試験

イ、粘度、引火點、凝點、酸價、鹼化價 沃素價、耐酸度、耐アルカリ度、耐光度、吸水量、屈折率ノ類 1 項目 金 2 圓

ロ、膨脹率、發熱量ノ測定、分溜試験 1 項目金 3 圓

ハ、耐熱、耐寒等ノ試験 1 項目 金 5 圓

ニ、比重測定ヲ伴フ分溜試験 1 項目 金 7 圓

ホ、染色、漂白、膠着、電解、電鍍等ノ應用試験 1 項目 金 5 圓

ヘ、一般材料等ノ供試體試験片ノ強度試験 1 項目金 2 圓

ト、前項試験片ノ製作費 1 個 金 2 圓

チ、供試體ノ成形操作ヲナス一般材料ノ強度試験 1 項目 金 3 圓

リ、絲、紙、布ノ強度試験及一般測定試験 1 項目

- 金 1 圓
- 3、檢定 前各號=準シ之ヲ定ム
  - 4、鑑定 前各號=準シ算出シタル料金ト所要見込日數トヲ考査シ金 5 圓以上 50 圓以内ニ於テ之ヲ定ム
  - 5、前各號=掲ケサルモノハ其ノ都度之ヲ定ム

(2) 分析、試験又ハ鑑定ノ爲提出スヘキ現品ノ數量ハ次ノ通トス

- 1、分析 定性又ハ定量分析 100 グラム以上
- 2、試験及鑑定
  - イ、油脂、塗料、顔料、染料、漂白劑、燃料、藥品、飲食物、化粧品、石鹼ノ類 200 グラム以上
  - ロ、革、ゴム、セルロイド、紙布、絲、硝子、陶磁器 珐瑯器 500 グラム以上
  - ハ、土、石、煉瓦、セメント、鐵材ノ類 1 キログラム以上
- 3、前各號=掲ケサルモノハ其ノ都度之ヲ定ム

同館設備使用料金

大 會 堂	晝 夜	晝 夜	30 圓
			50 圓
談 話 室	晝 夜	晝 夜	7 圓
			15 圓
實 験 室	晝 夜	晝 夜	1 週間以内 15 圓
			1 箇月以内 60 圓
			3 箇月以内 170 圓
			6 箇月以内 330 圓
化學實驗設備	1 日		3 圓

工業圖書の公開 閱覽場所 府立東京商工獎勵館工業試験部内

閱覽時間 自 4 月 1 日至 10 月 30 日午前 8 時より午後 4 時迄、自 11 月 1 日至 3 月 31 日午前 9 時より午後 4 時迄 但日曜、祭日休み土曜日は正午迄帶 出 書籍は本館指定の 閱覽室以外には帶出する事を禁ず

閱覽料 閱覽は無料とす

所藏書籍 概要を示せば次の如し

- 1、内外圖書千餘冊、化學並に化學工業關係のものを主とし其他金屬、合金、地質礦物、動植物等 化學工業に關係を有する書籍
  - 2、雜誌 化學及化學工学全般に渉るもの 16 種の外分析染料、染色、硝子、護謨、ペイント、石鹼、セメント、陶磁器、金屬等に關するもの
  - 3、官立試験所報告 理化學研究所、大阪工業試験所、燃料研究所、道路試験所衛生試験所、耐磁器試験所其他各府縣及市立工業試験場研究所報告等
- 圖書雜誌の複寫應需 本館は筆寫の不便を省く爲め

備付のレクテイグラフ寫眞複寫機により、本館備付の圖書雜誌は勿論その他廣く工業關係圖書、圖而等の複寫依頼に應ず。料金は 1 頁 30 錢の割なり。

夙に同館の 3 月中試験部依頼概況を擧ぐれば次の様である。

3 月試験部依頼概況 化學關係 依頼收受件數及内譯次の如し。

- 1、依頼收受件數 201. 内譯 分析及其他の試験 193. 實驗室及設備貸與 5. 諮問及調査 3.
- 2、同工業種類別件數
  - 金屬 33. 岩石鑛物 3. 無機藥品 6. 窯業建築材料 87. 有機藥品 1. 乾溜燃料 4. 鐵油アスファルト 53. 油脂石鹼 5. 香料化粧品 1. 紙纖維セルロイド 5. 其他 3.
- 3、試験種別件數 409. 内譯 分析 156. 測定 252. 試験 1.

機械關係 依頼收受件數及内譯次の如し。

- 1、依頼收受件數 345. 2、同試験件數 1850.
- 3、同試験種類別内譯。抗張試験 385. 耐壓試験 358. 屈曲試験 94. 硬度試験 45. 粉末試験 322. 凝結試験 322. 龜裂試験 322. 特種試験 1.
- 4、同材料別内譯。鐵及鋼材 341. 非鐵金屬材 87. 木材 1. 石材コンクリート 44. 布綱及紙 8. セメント 1368. 其他特種材 1.

内外最近刊誌參考記事目次

The Foundry, Feb. 15, 1932.

Molding Plumbing Goods. Edwin Bremer. pp. 10-13.  
Merge for Sales and Sell More Castings. Walther Buchen. pp. 14-16.  
Develop System for Price Setting. Le Roy M. Sherwin. pp. 18-20.  
Causes and Prevention of Pinholes in Aluminium Castings. D. Hanson and I. G. Slater. pp. 21-24.  
Prevent Losses with Proper Gates and Risers. Pat Dwyer. pp. 27-30.

Heat Treating and Forging, Feb., 1932.

The Manufacture of Forged Shafts. R. V. Wallace. pp. 95-97.  
Light Alloys in Aircraft. H. W. Gillett. pp. 98-101.  
Metallurgy and the Motor Car Industry, Part II. Robert Hadfield. pp. 102-103.  
Analysis of Accident Causes in the Metals Industry. C. P. Waite. pp. 104-106.  
Industrial Steels and Alloys. J. W. Donaldson. pp. 107-109.  
The Construction of Dies. G. A. Smart. pp. 111-112.  
Alloys in Machine Tools. D. M. Gurney. pp. 113-114.  
Recent Developments in Gas Burners, Part II. W. Trinks. pp. 121-123.  
Artificial Furnace Atmosphere Created from

- Ammonia, Part II. John E. Haig. pp. 124-127.
- The Metal Industry (London) Jan. 15, 1932.—Annual Review Number.**
- Prospects in the Non-Ferrous Metal Trades. Thos. Bolton. pp. 53-54.
- Industrial Alloys of Copper. Reginald G. Johnston. pp. 55-58.
- The Tin Industry.—Past Survey and Future Prospects. S. Heckstall Smith. pp. 59-60.
- Industrial Alloys of Tin. Paul G. J. Gueterbock. pp. 61-62.
- Aluminium and its Metallurgical and Commercial Prospects. Robert P. Tod. pp. 63-66.
- Alloys of Aluminium.—Some Practical Effects of Research. George Mortimer. pp. 69-74.
- Progress in the Nickel Industry in 1931.—The New Canadian Smelter. W. T. Griffiths. pp. 75-77.
- The Metallurgy of Zinc.—Modern Methods of the Extraction of the Metal from Ores Lower Grade and Increasing Complexity. Samuel Field. pp. 78-79.
- A Glance at Some Galvanizing Problems. Heinz Bablik. pp. 81-82.
- The Heat Treatment of Non-Ferrous Metals. D. Hanson. pp. 83-84.
- Bronze in the Foundry.—Notes on the Compounding and Founding of Bronze. Wesley Lambert. pp. 85-87.
- The Centrifugal Casting Process as Applied to Non-Ferrous Metals and Alloys. J. E. Hurst. pp. 88-92.
- Cold Rolled Metals.—The "1931" Standard. A. L. Molineux. pp. 93-96.
- Hot Pressings of Brass. J. D. Speakman. pp. 97-100.
- Typical Birmingham Metal Small Wares. F. Johnson. pp. 101-104.
- Progress in the Electroplating Industry (1931). E. A. Ollard. pp. 105-107.
- The Metal Industry (London) Jan. 22, 1932.**
- Helium in the Metal Industries.—Some Possible Future Applications. Julius Grant. pp. 121-122.
- Deoxidizers and Fluxes. G. L. Bailey. pp. 123-125.
- Permanent Moulding and Die Casting. p. 126.
- Industrial Conditions in Russia. pp. 127-128.
- Creep Properties of Metals. H. J. Tapsell. pp. 128-129.
- The Control of Electrodepositing Solutions. No. XI.—The acid Copper Bath. Samuel Field. pp. 131-132.
- The Structure of Electrodeposited Metal. IV. Leslie B. Hunt. pp. 133-134.
- The Metal Industry (London) Feb. 5, 1932.**
- Melting and Pouring Some Newer Alloys. "Electrographer." p. 169.
- Fluxes for Precious Metal Producers. E. T. Ellis. p. 170.
- A Practical Method for Studying the Running Quality of a Metal Cast in Foundry Molds. C. M. Saeger and A. I. Krynitsky.
- Tests of Welding and Weld Metal and their Interpretation. Aubney F. Burstall. p. 175.
- The Metal Industry (London) Feb. 12, 1932.**
- Defects in Non-Ferrous Castings. pp. 193-194.
- Discussion on the Testing of Welding. pp. 195-196.
- A Practical Method for Studying the Running Quality of a Metal Cast in Foundry Molds. C. M. Saeger and A. I. Krynitsky. pp. 197-198.
- Special Refractories for Use at High Temperature. Wm. H. Swanger and Frank R. Caldwell. pp. 199-200.
- P. M. G. Alloy. pp. 201-202.
- Zeitschrift für Metallkunde, Feb., 1932.**
- Berechnung der Restspannungen in Kaltgezogenen Rohren. N. Dawidenkow. s. 26-29.
- Zur Klärung der Systeme Ag-Sb-Zn, Ag-Cd-Sb und Ag-Cu-Sb. W. Guertler und W. Rosenthal. s. 30-34.
- Der Wärmeübergang an Nichteisenmetallen im Wärmofen. G. Wagener. s. 35-39.
- Sonderstähle in Werkzeugen zur Verformung von Nichteisenmetallen. V. Fabian. s. 40-42.
- Metal Industry, (New York), Feb., 1932.**
- The Use of Non-Ferrous Metals by the Steam Railroads. Frances A. Westbrook. pp. 49-50.
- Protection of Aluminium by Anodic Treatment. Joseph Rossman. pp. 51-52.
- Degreasing Metals by the Vapor Process. E. V. D. Wallace. pp. 53-55.
- Some Notes on Soldering Fluxes. A. Eyles. p. 56.
- Salt Cellars—Old and New. A. F. Saunders. pp. 57-58.
- Preparation of Steel Prior to Electroplating. George B. Hogaboom. pp. 59-61.
- The Fundamentals of Brass Foundry Practice. R. R. Clarke. pp. 62-63.
- Foundry Sand Control. A. A. Grubb. pp. 64-65.
- Steel, Feb. 15, 1932. (鹽澤)**
- Fabrication of Large Dairy Tanks Demands Expert Technique. L. E. Browne. p. 23-25.
- Seadrome Project Requires 17,000 Tons of Iron, Steel. A. H. Allen. p. 28-29.
- Steel, Feb. 22, 1932.**
- Improves Ladle Stoppers by Drying in Vertical Oven. L. F. Reinartz. p. 23-24.
- Large Uses of Steel in Small Ways. 211th Article. p. 28-30.
- Steel, Feb. 29, 1932.**
- Open-Hearth Facilities Expanded. p. 23-25.
- Blocks Provide Neutral Atmosphere for Hardening. p. 26.
- Open-Hearth Establishes Unusual Production Record. p. 27-28.
- The Iron Age, Feb. 11, 1932.**
- Photo-Electric Tubes Used in Making Automobile Valves. F. L. Prentiss. p. 381-384.
- Thorough Planning Results in Quick Moving of Keller Plant. R. E. Miller. p. 384-387.
- Electric Annealing of High-Speed Steels. Wirt & Scott. p. 388-390.
- Modern Painting for Modern Plants. Herbert Chase. p. 392-395.
- The Use of Steel Castings in Welded Structure. J. G. Ritter. p. 396-398.
- Ash is Best Measure of Value of Blast Furnace Coke. Roy P. Hudson. p. 399-400.
- The Iron Age, Feb. 18, 1932.**
- Japan's Steel Industry Furnishes the Key to Manchurian Aggression. p. 433-436.
- Machining Moter Car Differentials. p. 436-439.
- Iron Brake Drum Lining Centrifugally Cast into Steel Shell. p. 442-443.

Production Problem Solved by Continuous Liquid Heat Treatment. W. Gordon Park. p. 444-445.

**Iron & Steel Industry. Feb. 1932.**

The Sweeping of Oval Castings in Loam. Kurt Hoffmann. p. 195-196.

Practical Metallography of the Stainless Steels. E. C. Rollason. p. 197-200.

Twenty Year Advance in Electric Arc Furnaces for the Production of Iron and Steel. W. E. Moore. p. 203-205.

The Magnetic Moulder. p. 209-210.

Large High Frequency Furnaces. D. F. Campbell. p. 211-213.

**Foundry Trade Journal. Jan. 28, 1932.**

The Influence of Shape in Tensile Test-Bars. A. C. Vivian. p. 67-69.

The High Frequency Furnace and its Use for the Manufacture of Steel Castings. T. R. Middleton. p. 73-75.

**Foundry Trade Journal. Feb. 4, 1932.**

Moulding and Casting a 32-Ton Foundation Block. G. E. Morgan. p. 83-85.

Some Jobbing Foundry Moulding Jobs. J. H. List. p. 87.

Heat-Resisting Cast Iron p. 88.

**Foundry Trade Journal. Feb. 11, 1932.**

Sand Testing in the Foundry. Wm. Y. Buchanan. p. 97-100.

Manufacture of Chrom-Iron Alloys. p. 101-103.  
An Efficient Moulding Plant for Cast-Iron Ingot Moulds for Steel Ingots. Robert Jones. p. 105.

**Foundry Trade Journal. Feb. 18, 1932.**

Sand Testing in the Foundry. Wm. Y. Buchanan. p. 113-116.

The Design of Oil-Fired Crucible Furnaces. G. S. Watson. p. 117.

Oil-Sand Practice. B. Gale. p. 118-120.

**Foundry Trade Journal. Feb. 25, 1932.**

Some Practical Notes on Oil Sand Practice. H. W. Keeble. p. 130-133.

**Foundry Trade Journal. March 3, 1932.**

The Modern Blast Furnace. Geo. E. Butler. p. 145.

The Effect of Various Elements on the Quasi-isotropic State and the Sensitiveness to Section Thickness of Cast Iron. p. 147.

**Metallurgia. Jan. 1932.**

Recent Developments in Cast Iron. J. G. Pearce. p. 81-82.

Vanadium, its Ores, Methods of Extraction, and Applications. p. 83-85.

Aluminium Sheet Production. Robert J. Anderson. p. 87-90.

M. V. "C" Aluminium Silicon Alloy. L. E. Benson. p. 93-94.

**Metallurgia. Feb. 1932.**

Large Electric Furnace Installations. Part I. A. Glynne Lobley. p. 123-126.

Aluminium Sheet production. Robert J. Anderson. p. 127-129.

Hollow Forged Vessels for High Temperatures and Pressures. Capt. Ronald Benson. p. 131-134.

The New Alloys and Machine Tool Design. Part VI. Francis W. Shaw. p. 137-138.

The Bessemer Process. Jas. Cunningham. p. 139-141.

**Stahl und Eisen. 18. Feb. 1932.**

Banart und Schüttung der auf deutschen Hochofenwerken gebräuchlichen gichtverschlüsse. Paul Reichardt. s. 157-165.

Eisen oder Holzschwelle? Rudolf Vogel. s. 166-169.

**Stahl und Eisen. 25. Feb. 1932.**

Aufgaben und Organisation eines Arbeitsbüros im Walzwerk. Otto Beyer und Peter Zahn. s. 181-189.

Werkstoff und Anstrengung. Franz László. s. 189-192.

**Stahl und Eisen. 3. März 1932.**

Die Mechanisierung der deutschen Landwirtschaft in Gegenwart und Zukunft. Ernst Zander. s. 209-218.

Neuere Drehrohfen-Sinteranlagen. Joseph Paquet. s. 218-220.

**Die Giesserei. 5. Feb. 1932.**

Formschwäze. E. Feil. s. 41-46.

Ein Anwendungsbeispiel für Grünkernformerei. A. Zankel. s. 46-49.

Sicherung und Beitreibung der dem Lieferer gegen den Besteller zuzustehenden Kaufpreisforderung. W. Hundemer. s. 49-53.

**Die Giesserei. 19. Feb. 1932.**

Einiges über Stahlwerkskokillen. C. v. Meszöly. s. 61-66.

Einige Ausführungen zu der Abhandlung von O. Cromberg „Neue Formen der Selbstkostenberechnung in Stahlgießereien“ und weitere Vorschläge zur Selbstkostenermittlung in Gießereien. H. Niedt. s. 66-70.

Modelleinrichtung und Herstellung der Form eines Lokomotivroststabes, besonderer Konstruktion. Karl Grocholl. s. 71-72.

**Korrosion und Metallschutz. Feb. 1932.**

Beiträge zum Korrosionsproblem. Haus Erlenmeyer. s. 29-35.

Sammlung und Sichtung der Korrosionsliteratur. W. Wiederholt. s. 35-40.

(岡村)

**研究報告 製鐵所研究所 Vol. XI No. 5**

製鐵製鋼用原料の熱量分析と其品位に就て

製鐵所技師 理學博士 田所 芳秋

**電氣製鋼 第8卷 第3號**

鐵鑄の研究(其2)

遠藤 彦造

ニッケル珪素鋼に就て

金友 濤聲

磷酸による各種金屬合金の腐蝕

H. & Y 生

**鑄物 第4卷 第3號 昭和7年3月**

金型鑄造に依る砲金鑄物の熱處理

太田 三吉

アルミニウム鑄物

石川 俊貞

鑄鐵鑄物の構造に就て

村上 謙三

重要な鑄物に生じ易き缺點

森 重侯

**鑄物 第3卷 第2號 昭和6年12月**

高杭打鑄鐵に就て

陸軍造兵廠

特殊辦鑄造法

海軍艦政本部

パイロメーターの使用法に就て

淺原 源七

鑄造溫度に就て

田村 仙太郎

- 蒸汽機關本汽笛鑄造の方法基準制定 鐵道省  
 鑄物砂の通氣性が鑄造に及ぼす影響 武智 馨  
 アルパックス鑄物に及ぼす熔劑の效果に就て 渡邊 一郎
- 地學雜誌 第43年 第517號 昭和7年3月  
 米國に於ける地下地質の顯微鏡的研究に就て 千谷 好之助
- 水曜會誌 第6卷 第9號 昭和7年2月  
 氣相存在の三元系を誘導して  $Fe-N_2-H_2$  及び  
 $Fe-C-H_2$  系を論ず 西村 秀雄  
 ベリリウム鑛の發見 上治寅次郎、塚本成之
- 製鐵研究 第122號 昭和7年2月  
 骸炭爐作業の一考察 伊能 泰治  
 小型ロールのカリバーチルド法に就て 目黒 斌  
 骸炭爐々壁の厚さと單位面積に對する  
 炭化量の關係に就て 高橋 湛  
 ショーア硬度に關する二三の研究 上田 哲三  
 低クロム鋼の研究 森寺 一雄
- 海外經濟事情 第5年 第11號 昭和7年3月  
 チリー國の鑛業保護獎勵金交付法  
 硫酸銅輸入概況 (ビルマ)
- 電氣化學會誌 第51號 昭和7年2月  
 純理研究と應用研究との態度 加藤 興五郎  
 亞鐵酸亞鉛の磁性的原因に關する研究 加藤興五郎、武井 武  
 アルミニウム及び其の合金にニッケルの鍍金研究 持田 徳彦
- 海外經濟事情 第5年 第12號 昭和7年3月28日  
 日カナダの金及諸礦産狀況
- 日本鑛業會誌 Vol. 48. No. 563. 昭和7年3月  
 採炭用ニウマチイック・ハンマー・ピツクの性能に就て 三浦 勝、熊澤良雄  
 焙燒亞鉛鑛の磁選並に抽出に關する二、三の實驗 唐島 讓、橋本 幸一  
 亞鉛鑛の硫酸化焙燒に關する研究 唐島 讓  
 電熱線の材質に就て 井上 克己  
 樺太の鑛業 河野 信一
- 日本化學會誌 第53巻 第3號 昭和7年3月28日  
 定性分析法創案 (第一報) 梗概 P. 237 永海佐一郎、加藤 多喜雄  
 恒溫槽、恒壓器等の電氣調節器に於ける水銀-白金  
 (或は鐵) 接觸面の火花除去に就て P. 319 森口 信男  
 ルシウムの熱解離平衡の測定 P. 329 田丸節郎外 2名
- 金屬の研究 第9卷 第3號 昭和7年3月  
 鐵-炭素-モリブデン系平衡狀態圖 武井 武  
 鉛の變態點の有無に就いて 枝 和四郎  
 窒化チタンに關する二、三の實驗 川口 卯三郎
- 九州鑛山學會誌 第3卷 第2號 昭和7年3月25日  
 炭礦の機械化 永積 純次郎  
 石炭瓦斯の問題 伊能 泰治
- 研究報告 第1號 昭和7年3月 (住友伸銅鋼管株式會社)  
 鍛鍊アルミニウム合金の比較試驗 P. 1 松田 孜 外 2名  
 食鹽水中に於けるアルミニウム輕合金の腐蝕試験に  
 就て P. 10 五十嵐 勇  
 アルミニウムの硝酸中に於ける腐蝕試験 P. 18 東尾 伸吉  
 輕合金 "Aeral" に就て P. 20 小磯 五郎  
 常溫加工せる炭素鋼の  $A_1$  以下の燒鈍による機械的性  
 質の變化 P. 26 絹川 武良司  
 酸及アルカリ溶液に於ける銅の腐蝕に就て P. 36 稻村 賢三  
 眞鍮管の内應力と耐時期割性 (第一報) P. 42 田邊 友次郎
- 金屬 第2卷 第4號 昭和7年4月1日  
 不銹鋼 戸波 親平  
 不銹鋼の性質と其活用 P. 127 吉田 清三郎  
 不銹鋼に就て P. 135 谷益 次郎  
 不銹鋼 種類性質及用途 P. 149 丸山 芳夫  
 耐酸鋼及耐熱鋼に就て P. 155 玉置 正一
- 商工月報 第8卷 第3號 昭和7年3月31日  
 滿蒙經濟問題に對する世論 P. 1  
 最近本邦貿易の趨勢 P. 20  
 英國戰後の失業趨勢 P. 43  
 産業五箇年計畫に關する商工省の根本方針決定 P. 109
- 理化學研究所 彙報 第11輯 第4號 昭和7年4月  
 金屬の粘性變形中に起る 2種の伸び 田口 柳三郎  
 電壓測定による化學反應の研究 (フェロシアン化リチ  
 ウムと亞鉛との反應) 齋藤 正一郎  
 電壓測定による化學反應の研究 (亞鉛とフェロシアン  
 化アルカリの反應に對するルビナウム及セシウムの影  
 響 P. 600 齋藤 正一郎  
 切削抵抗に關する研究 (平削工具の切削  
 作用) P. 606 大越 諄  
 北海道石炭鑛業會々報 第211號 昭和7年3月

選炭に就て P. 16	花江良太郎	蒸汽機關車の平衡装置に就て 松尾 勤 六
機械採炭法 P. 25		研究報告 昭和7年2月 (三菱航空機株式會社)
工業雜誌 第856號 第68卷 4月號		固態滲炭劑の滲炭力減衰に就て 石澤 命 知
安全剃刀用ブレードの性質と其試験方法 P. 133		研究報告 昭和7年3月 (前同)
柴田 晴彦、久保 正氣		Angstrom 法に依る熱傳導率測定 須永 信 二
石炭時報 第7卷 第4號 昭和7年4月5日		Scintillo 發電機の二次導線として裝鎧線電纜を使用する事に就て 須永 信 二
歐米の炭礦を視察して P. 2	山口 六平	滲炭硬化法の比較 石澤 命 知、岩永利 夫
本邦石炭埋藏量の調査概要 商工省鑛山局調		Piston Pin 穴の氣泡に就て 永田 秀 人
液體炭酸瓦斯應用の新爆藥カルドックス		航空三號揮發油と四エチル鉛入り米國加洲産揮發油の混合 今井安次郎、町井 義夫
に就て P. 30	廣田 理太郎	電氣製鋼 第8卷 第4號 昭和7年4月15日
工業化學雜誌 第35編第4冊 昭和7年4月5日		燒入れに關する最近の諸研究 P. 169 濱住 松二 郎
鍍金液の均一電着性 P. 406	金子 清 次	數種の非金屬系の平衡狀態圖 P. 203 金友 濤 聲
白金抵抗寒暖計に就て(其三)低溫度定點測定		續本邦鑄物史の研究(其一) P. 207 石井 健一 郎
に關する報告 P. 453	神原 周、松井元太郎	工 政 第146號 昭和7年4月
新融點測定裝置 P. 458	松井元太郎、加藤弘人	資源の開発と發明の獎勵 松井 春 生
滿洲技術協會誌 第9卷 第48號 昭和7年3月		海外經濟事報 第5年 第15號(昭和7年4月18日)
鐵の再結晶並に單結晶生成に就て P. 89	後藤 有 一	イント製鐵業の現在及將來 (在ボンベイ領事館)
滿洲朝鮮産鑄物砂の機械分析結果より見たる		
物理的性質 P. 109	松塚 清 人	

昭和7年2月中(八幡)製鐵所銑鋼生産高表(單位噸)

銑		鐵		鋼		塊		銅		材	
當月生産高	前月比較	1月以降累計	當月生産高	前月比較	1月以降累計	當月生産高	前月比較	1月以降累計	當月生産高	前月比較	1月以降累計
53,032	-1,300	107,364	90,715	+22,351	159,079	79,722	+9,827	149,617			

昭和7年1月中重要生産月報拔萃(商工大臣官房統計課)

	1月中	前月	前年同月	1月以降累計	
				昭和7年	昭和6年
金	945,291	999,578	988,895		
銀	12,386,449	13,893,946	13,844,830		
銅	5,908,211	6,192,407	5,930,217		
硫	5,173	4,916	4,439		
石油(原油)	2,184,088	2,250,239	2,249,739		
セメント	222,787	222,822	256,591		
過磷酸石灰	286,562	288,626	309,228		
硫	69,869	84,789	69,881		
安	37,237	40,325	23,111		